

緑化計画について

2-5-6 緑化計画

本事業では、埋立完了後に速やかに地域の自然と景観の回復に努め、「奈良県林地開発許可制度の手引き」に基づき緑化を行うこととする。

緑化計画を表2-5-5に示す。

緑化に使用する植物は、生態系に配慮し、可能な限り地域の圃場で生産または育苗した種子や苗木（地域性種苗）を使用する。

また、施工後の定着確認や植生管理を行う。

表2-5-5 緑化計画

場所 (時期)	求められる効果	緑化計画	備考
掘削土仮置部 (埋立期間中)	<ul style="list-style-type: none"> 土砂の安定化 景観対策 	<p>覆土として利用するまでの期間が長期間となるため、土砂の安定化と緑の景観の確保を目的として、種子吹付により緑化を行う。</p> <p>景観性や生物多様性の観点から多様な種で構成される草本群落を目標とし、メドハギ、イタドリ、チガヤ、メヒシバ等を播種する。</p>	在来種を使用。
掘削土仮置部 外周部及び埋 立地外周部 (埋立期間中、 埋立完了後)	<ul style="list-style-type: none"> 近隣住宅等への防塵、防音対策 周辺からの景観対策 	<p>防塵、防音効果は、冬季に葉を落とす落葉広葉樹よりも常緑広葉樹の方が効果があるため、常緑広葉樹高木種（ツブラジイ、アラカシ、ツクバネガシ等）を植栽する。</p>	現地確認種を選定。
掘削土仮置部 中央部及び埋 立地中央部 (埋立完了後)	<ul style="list-style-type: none"> 里山景観の創出 生物多様性の向上 	<p>季節感のある里山の景観を創出し、生物多様性を向上させるため、埋立地周辺に分布する落葉広葉樹林のコナラ群落を目標植生とする。植栽樹種としては落葉広葉樹のコナラ、クヌギ、クリ、エノキ、ケヤキ、アキニレ、エゴノキ、リョウブ等とツツジ類等の花木とする。</p>	現地確認種を選定。